

前橋・高崎の中世をあるく

東国千年の都

女堀開削・箕輪城築城

浅間山大噴火、大開発と武士団の形成、人々の信仰と暮らし、お寺とお墓、
県都前橋・商都高崎の形成は中世に始まった

国史跡女堀、根小屋一丁堀遺跡蔵骨器・板碑、富田遺跡群蔵骨器・板碑、和田山天神前遺跡水瓶・
中世寺院瓦、西善尺司遺跡、榛名神社所蔵品、茂木山ノ前遺跡備蓄銭、国史跡箕輪城跡陶磁器・
楽茶碗、厩橋城(前橋城)、和田城(高崎城)など

【開催にあたって】

ご好評をいただきました昨年度につづき、今年も前橋・高崎
連携文化財展「東国千年の都」を開催する運びとなりました。

この連携事業は、これまで蓄積されてきた前橋・高崎両
市所有の貴重な歴史資産の一層の活用を図り、両市の歴史
や文化を広く知っていただくため開催しているもので、今回
のテーマは、前橋・高崎両市の著名な中世遺跡に着目し、
おんなぼりかいさく みのおじょうちくじょう
「女堀開削・箕輪城築城」としております。

前橋市の国指定史跡「女堀」は、赤城山南麓を東西に貫
く巨大な用水遺構であり、中世群馬の幕開けを告げる重要
な遺跡です。また、高崎市の国指定史跡「箕輪城跡」は、
中世の前橋・高崎にゆかりの深い長野氏の築城によるもの
で、徳川家康が関東入府後、前橋城と同様に関東の要とし
て重要視した城です。

今回の企画展は、これらの遺跡をはじめ両市の地域から
発掘された資料などを通して、中世の前橋・高崎の姿を明
らかにしていくとともに、現在の発展の基礎ともなった近世
城下町の姿を確認していく企画となっております。

ご来場の皆様が、豊かな都市文化を発信し続ける前橋・
高崎両市のパワーの源泉を探り、今後の「地域づくり」や「人
づくり」に活用されるとともに、両市の新たなつながり
を見つけたす契機となれば、本事業開催の趣旨に
かなうものと考えております。

どうぞ、ごゆっくりとご覧ください。

前橋市長 高木 政夫
高崎市長 松浦 幸雄



主催：前橋市・前橋市教育委員会／高崎市・高崎市教育委員会

後援：上毛新聞社・朝日新聞前橋総局・毎日新聞前橋支局・読売新聞東京本社前橋支局・NHK前橋放送局・群馬テレビ・FM群馬・ラジオ高崎

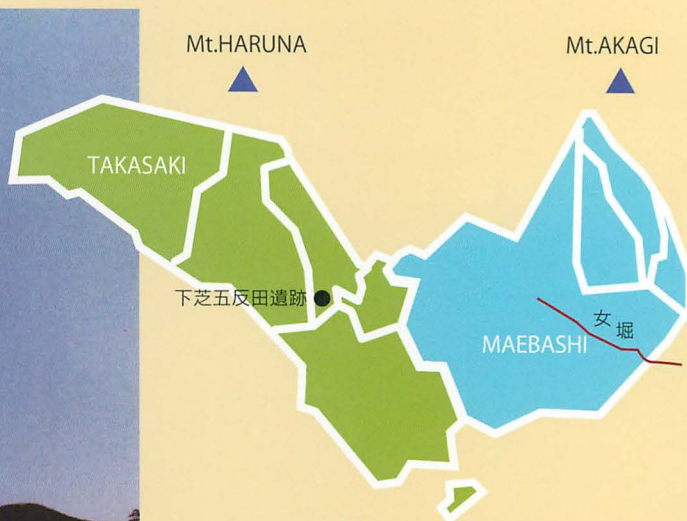
I. 古代から中世へ

中世への胎動

歴史時代最大の噴火といわれる 1108 年の浅間山噴火は上野の国に甚大な被害をもたらした。前橋・高崎地域も例外ではなかったが、赤城南麓では総延長 13km という遠大な用水路を掘削し、火山災害からの復興を目指した。女堀と呼ばれるこの用水路を計画したのは秀郷流藤原氏という武士団であり、この女堀掘削から当地域の中世の扉が開かれた。

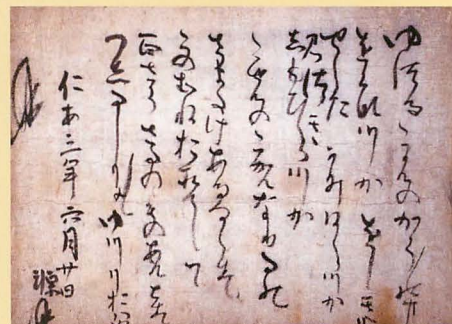


1973 年の浅間山噴火（浅間縄文ミュージアム提供）



1108 年 浅間山大噴火! そして中世は始まった

平安時代も終わりに近い 12 世紀初頭の天仁元 (1108) 年、上野国と信濃国境に聳える浅間山の噴火により、上野国一円の農耕地は甚大な被害をうけた。新田荘を開発した新田義重は自分の開発所領を「こかん（空閑）のこうこう（郷々）」と記しており、火山灰降灰による被災地域一帯の、人馬の声なき様相が窺い知れる。浅間山の噴火により荒廃した耕地は、在地領主の力がかりな再開発によって私領となり、その權益を守るために中央の貴族に寄進され、荘園として成立する。天仁元年の浅間山の大噴火は、古代の土地制度から中世的な土地領有制度への転換を促すこととなった。

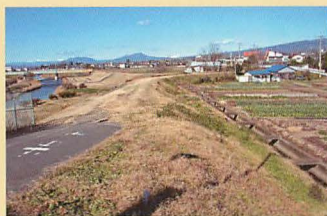


新田義重謄状

（太田市長楽寺蔵・資料写真は群馬県立歴史博物館提供）

赤城南麓に刻まれた女堀〈中世初頭の巨大用水路〉

女堀は、前橋市上泉町の上毛電気鉄道桃木川鉄橋付近を取水口として、赤城南麓の標高 95 m の等高線にほぼ沿いながら、幅 15 ~ 30 m、深さ 3 ~ 4 m の規模で、およそ 13km 離れた伊勢崎市国定町西国定の独鈷田と呼ばれる細長い谷地まで延々と続いている。これまでの発掘調査の結果から、途中分水せず一気に水を引くことを目的とした農業用水路であることが判明しているが、未完成のまま通水することなく途中放棄されたことも明らかになっている。これは、路線を決定する際に通過地域の水田地帯や水源等を避けるため、流路を上方に変更したことに起因すると考えられており、設計段階から無理のある水路であった。



女堀取水点付近の桃木川



二之宮地区上ノ坊の調査



現在の独鈷田付近 わずかに谷戸田の風景が残る



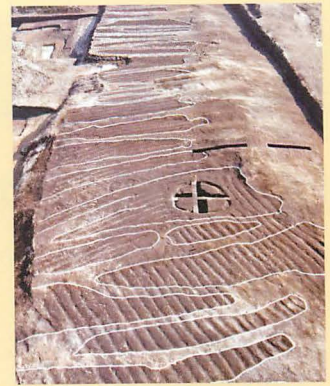
女堀通過地点略図



女堀空中写真 飯土井

火山災害からの復興

女堀の掘削排土の下から、女堀開削当時の畠跡が見つかった。この畠の下には浅間B軽石が堆積しており、女堀の開削は、浅間B軽石降下以降に行われたことが分かる。また、周辺の沖積地では、浅間B軽石に埋もれて放棄された水田が見つかっており、女堀の通過地帯では、火山災害により水田から畠作への転換が図られたが、畠は長く使われることなく、女堀の開削により潰されてしまったことが分かった。軽石に覆われた水田の復旧は大量の用水を必要とし、地方では復旧されず放棄される水田が多かった。荒地の再開発は、在地領主にとって、自らの所領を一気に拡大できるチャンスであり、女堀の開削は実に魅力的な事業だったのである。



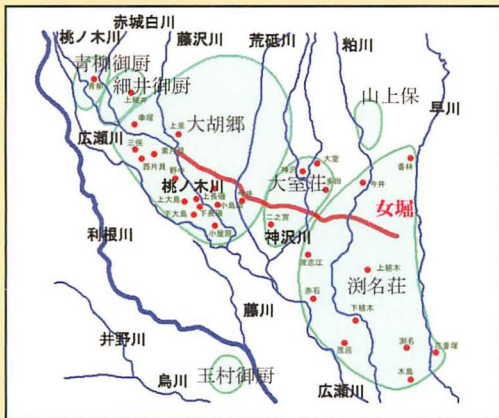
女堀の排土下から見つかった畠跡



浅間B軽石と畑の耕作土の土層断面

女堀の開削と秀郷流藤原氏

女堀の調査の結果、各地点で工事が未完成の状態が確認された。それにもかかわらず、全線が開削されていることは、一斉に工事が始められたことを示している。女堀の終点の伊勢崎市国定町西国定周辺は、平将門を鎮定した倭藤太（藤原秀郷）の流れをくむ^{たいらのまさかど ちんてい たわらのとうた ふじわらのひでさと} 瀧名氏の所領であり、女堀の路線周辺は、大胡郷・大室荘など、瀧名氏と同じ秀郷流藤原氏の勢力範囲であった。女堀の掘削工事が、工区を分けて各地点で同時に行われていることは、統一した意思が働いていたと考えられ、赤城山南麓に土着した秀郷流藤原氏の同族集団の、壮大な共同プロジェクトとして行われた一大工事であったことが窺える。

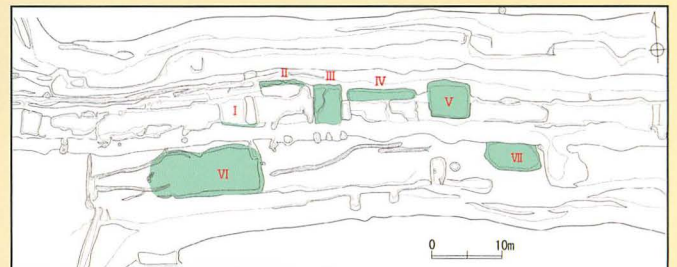


女堀と荘域想定図

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『女堀』1984より



小間割



小間割図 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『女堀』1984より

榛名山南麓の古代から中世へ

高崎市の下芝五反田遺跡（箕郷町下芝）では浅間B軽石より上の面から打ち込まれた耕具の痕跡が軽石層下の土壌に残っていた。軽石に覆われた土地の開墾には多大な労力を要したことであろう。また、周囲に櫓が配され堂宇と推定される建物跡からは軽石層の直上で二体の仏像が毛彫りされた青銅製の鏡も出土している。平安時代からの神仏習合思想を具体的に示す資料である。



下芝五反田遺跡出土八稜鏡

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団より提供



大室・赤堀地区

II. 中世の信仰とくらし

前橋・高崎の中世世界

前橋・高崎市域は群馬県内でも城館跡が多く、また発掘調査が進んでいる地域である。

根小屋一丁目遺跡（高崎市）の中世墓、茂木山ノ前遺跡（前橋市）の約 28,000 枚の備蓄銭、一大宗教ゾーンであった榛名神社に伝えられた逸品、これらの発掘された出土品や伝世資料から当時の武士や庶民のくらし、信仰、経済状況を振り返る。

墓

中世墓の風景

根小屋一丁目遺跡（根小屋町）は 10 基の板碑、2 基の五輪塔が良好な状態で残っていた中世墓地である。

五輪塔および板碑各 1 基の下からは火葬骨の入った壺（蔵骨器）が発見された。

中世においては、死体を野ざらしにする遺棄葬と呼ばれる葬法が一般的であったが、有力武士の階層では板碑・石塔を造立した。したがって根小屋一丁目遺跡に葬られた人々は、周辺の山名氏などの有力武士団との関連が想定される。

中世墓に使われた蔵骨器

中世においては、火葬骨を取めるために陶器の壺を用いることがあった。当時の高級品である瀬戸焼の瓶子、四耳壺は本来は酒などの液体を入れる器であるが、使用者の地位の高さを示す器物でもあったため蔵骨器に転用されたものと考えられる。これらは蔵骨器として用いるため肩の部分で割られている。

瀬戸焼以外にも、中世には全国規模で流通した常滑焼や低い温度で焼かれた地元産の軟質陶器も蔵骨器として使われた。

墓とお供え物 - 国府南部遺跡群（高崎市塚田町） -

室町時代前半から、それまでの火葬墓から、穴を掘ってそこに人の遺体を納める土壌墓に墓制が変化する。国府南部遺跡群では、室町時代前半の土壌墓が発見され、和鏡・小神像・かわらけ（素焼きの小皿）など充実した副葬品が出土している。この墓は、国衛（上野国の役所）に近い位置関係や優れた出土品からみて、当時の国衛に関連する有力者が埋葬された可能性が高い。



和鏡



小神像



根小屋一丁目遺跡板碑



赤城南麓の中世墓

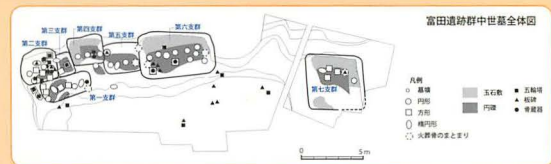
前橋市富田町の富田遺跡群では、赤城南麓の緩斜面を、幅 4 m、長さ 27 m にわたってテラス状に削り出した部分から 59 基の中世墓群が発見された。四角形に区切られた 7 区画が認められ、一区画 1.5 ~ 5 m の規模で、外側に緑石を廻らして玉石を敷き、さらに内側に緑石を貼り石で仕上げ、墓穴を等間隔に造っていた。13 世紀後半からの区画が認められ、14 世紀前半には、板碑や凝灰岩製の五輪塔、蔵骨器が使用され、その後、安山岩製の五輪塔が使用されていた。



富田遺跡群中世墓検出状況



柏川町月田 長峰蔵骨器出土状況



富田遺跡群中世墓全体図

城館

中世高崎の城館跡

高崎市域で確認される城館跡は、戦国時代の事例が多くを占める。なかでも長野氏に関連する城館跡群（浜川町周辺）は発掘調査された例も多く、その規模・内容が判明している。それらは、約 100m 四方の範囲を堀で区画し、その内側に土塁を築き、内部に掘立柱建物を数棟配置する造りであった。



発掘された矢島館跡

信仰

燭台

燭台はロウソクをともしため
のものだが、当時のロウソクはミ
ツバチの巣から作った蜜蝋か蠟
の木などから作った木蠟が原料
で、生産量も少なかったため非常
に高価なものであった。このため
使用できるのは寺院などに限ら
れていた。

香炉

香炉も仏前で香を焚
き供養をおこなうための
寺社の必需品である。燭台、
香炉とも釉薬こそ掛かってい
ないが、表面が磨かれた丁寧
なつくりになっている。どち
らも柴崎村間遺跡（柴崎町）
から発見されている。



柴崎村間遺跡燭台



十一面観音坐像御正体
鎌倉時代（榛名神社蔵）

榛名山の信仰

榛名山の信仰はもともと山そのものをあがめる山岳信仰であ
ったと思われるが、採集された遺物などから、遅くとも9世紀頃ま
では現在の境内地が信仰の中心になっていたと考えられる。

神は仏が姿を変えて現われたものとする本地垂迹思想が鎌
倉時代になって完成すると、榛名神社境内には嚴殿寺の寺院施設
が造営され、座主と呼ばれる僧侶が神社を支配することとなった。
このため古来より伝えられた品々には仏教と神信仰を融合した
神仏習合思想を反映したものが多い。

中世寺社における瓦と仏具

和天山天神前遺跡（高崎市箕郷町和田山）

中世には有力武士団の信仰の支えとして多くの寺社が建立され
た。これらの寺社では瓦が出土している。中世において瓦を使用
したのは寺社のみであり、瓦は寺社を象徴する遺物といえるので
ある。

和天山天神前遺跡は、西上野における修験道の有力拠点であ
った極楽院にかかわる遺跡である。この遺跡からは発掘調査では瓦
のほかにも全国初になる信貴形水瓶が出土している。水瓶は仏具で
あり、寺を象徴するものとして大切に埋納されたのであろう。

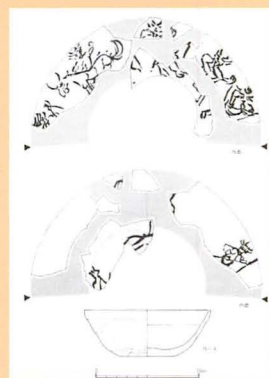


和天山天神前遺跡水瓶

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団より提供

土器に描かれた庶民の信仰

前橋市鶴が谷町の柳久保遺跡群で、馬に乗った鬼、それに
仕える5人の鬼、牛頭天王と7人の鬼が描かれた土器が見つ
かった。この土器は、豚の骨、馬の歯、5枚重なった土器な
どと共に、水田跡の水口付近から出土した。水田跡は浅間B
軽石に覆われており、噴火の直前まで耕作していたと考えら
れる。平安時代に書かれた『古語拾遺』には、これらの出土
状態と良く似た「まつり」の記述があり、豊作を祈る「まつり」
が、一般民衆の間で行われていたことを知ることができる。



発掘された中世の寺

「瀧山龍光寺」。前橋市粕川町女瀧
の木ノ下遺跡の発掘調査で出土したカワラ
ケに墨書きされた文字である。調査で
は、溝に囲まれた方形区画遺構と、中世
の土壇墓群と焼けた骨や五輪塔が散乱す
る墓域とが検出された。龍光寺は今も現
存する寺で、木ノ下遺跡の700mほど
北西にある。木ノ下遺跡で検出された方
形区画遺構は、龍光寺の元寺跡と推定で
き、中世寺院の実態を知る良好な資料で
ある。



水田地帯の屋敷跡

前橋市南部の前橋台地に広がる房丸町・徳丸町・西善町・中内町周辺から、多
数の屋敷跡が検出されている。この地域は古代から穀倉地帯として開けていたと
ころで、水田地帯に点在する微高地上に中世の屋敷が点在する姿が明らかになっ
た。西善尺司遺跡では濠に囲まれた屋敷跡のほぼ全貌が捉えられ、中世土豪の土
地領有の姿が窺える。この地域にある宿阿内城や力丸城などの戦国期の城館は、
環濠屋敷をいくつも連結させて築かれたものと考えられている。また、二之宮町
の二之宮宮下東遺跡では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての貴重な中国製陶
磁器が多数出土し、二之宮赤城神社、大室荘の成立や大室氏に迫る可能性もある。



西善尺司遺跡



二之宮宮下東遺跡

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団提供

北関東の要の城－箕輪城－

その後、武田氏→織田氏→北条氏と支配者が変わったが、その間、各戦国大名を代表する家臣が城主をつとめた。北条氏が滅んだ天正18(1590)年、徳川家康の筆頭重臣である井伊直政が城主になった。越後の上杉氏、北毛・東信の真田氏の押さえとして直政は配されたともいわれ、まさに北関東の要の城として位置づけられたのである。しかし、慶長3(1598)年に直政は交通の要衝から外れる箕輪城を廃城にし、高崎城を築城した。



箕輪城跡は西上野を代表する重要な城郭として昭和 62(1987) 年に国史跡に指定された。平成 10 年度から史跡の内容確認を目的とした発掘調査が開始され、その調査成果に基づいた史跡整備・活用を今後実施していくことになる。

この調査によって、関東地方の同時代の城郭としては、最大級の規模になる門や石垣など、まさに北関東の要の城として相応しい城づくりがなされたことなどが明らかになった。



箕輪城 初山焼大皿

箕輪城からは当時高級品であった陶磁器が、県内城館跡の中で最も多く出土している。ほぼ同じ面積を調査した矢島館跡（浜川町）では14点しか出土しなかったのに対し、箕輪城では実に476点が知られ、圧倒的な差が認められる。これらは、中国南東部や愛知県瀬戸市周辺から船で運ばれたものであり、膨大な運送コストがかかる高級品であった。それが箕輪城で大量に出土していることは、この城が上野において、最大の流通拠点であったことを示している。



箕輪城 御前曲輪の西虎口

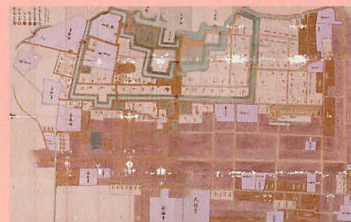


箕輪城 三の丸の石垣

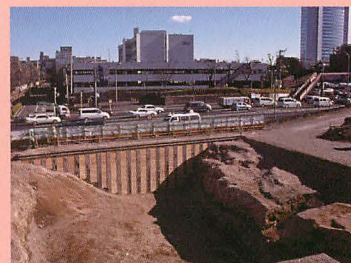


高崎城は西側で鳥川と接しており、残る三方を堀と土塁で囲うことによって
防御能力を高めた囲郭式の城である。

慶長3(1598)年、高崎城の初代城主となった井伊直政が本丸と城下町の整備に着手したが、最終的に本丸を完成させたのは7代藩主安藤重博で、元禄5(1692)年頃とされ

[illegible]

高崎城 御城内外惣絵図



高崎城 XV 遺跡 2・3 号堀
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団より提供

高崎城が築城される以前、この場所には 15 世紀前半に和田氏によって築かれたといわれる和田城が存在していた。戦国時代には和田城をめぐる上杉氏、武田氏、北条氏などが争奪戦を繰り返したが、天正 18(1590) 年、豊臣秀吉の小田原征伐による北条氏の滅亡にともない、和田城は落城した。

発掘調査では和田城の時代のもと思われる建物跡、陶磁器、鉄砲玉などが発見されている。

高崎城は、築城された慶長3(1598)年から明治2(1869)年までの約300年近くにわたって機能していた。高崎城の発掘調査では、記録に残されていない「障子堀」と呼ばれる施設が二ノ丸堀に存在することが明らかとなった。これは堀底を碁盤の目状に掘り込むことで敵の動きを封じる防御施設である。

また、発掘調査ではやちがわら おおこうち鯪瓦おにがわらと大河内氏の家紋が刻まれた鬼瓦、大型建物跡や井戸、陶磁器などが発見されており、当時の生活を垣間見ることができる。



高崎城 二ノ丸障子堀

前橋へ

戦国時代、中毛・西毛のそれぞれの地域で拠点になった城郭が厩橋城であり、箕輪城であった。この両城を築城したのが箕輪城を本拠にする長野氏である。前橋・高崎両市域は、長野・武田・上杉・北条氏といった戦国大名の争覇が繰り広げられた舞台となった。戦国時代が終わり、徳川の世になると箕輪城は高崎城に移城し、厩橋城は前橋城と名を変える。この両城は江戸時代を通じて上野を代表する城郭として、前橋・高崎両市の発展の礎を築くことになった。

前橋市の城館遺跡

前橋市内の中世城館遺跡では、大胡城、膳城、嶺城、荻窪城などが今も堀跡や土塁が良好に残っている。上泉城も現在の町並みの中に堀跡や土塁が想定できる稀有な例である。一方、前橋城の前身である厩橋城は、前橋の中世城郭の代表といえるが、近世の改築や現代の市街地化により、今はその姿を殆んど留めていない。

総社長尾氏の蒼海城

蒼海は、前橋市西部の元総社町内を流れる染谷川と牛池川に挟まれた東西2km、南北2kmの範囲にある。築城年代は不明であるが、永享元(1429)年上野守護代長尾忠房が修築したといわれ、以後総社長尾氏の本拠となったが、永禄10(1567)年に武田氏により落城した。蒼海城は、古代の国府の位置に重なるため、碁盤の目のような規則的な区画の中に中心の曲輪は配置されている。

前橋城 古代の姿

前橋台地の北東縁辺にあたる前橋市街地では、4世紀以降の古墳時代から遺跡が認められる。八幡宮社殿下の古墳・龍海院裏古墳などが点在し、前橋城内では北曲輪遺跡で古墳が調査され、また、古代の東山道「群馬駅屋」を想定させる溝や、緑釉陶器などの希少遺物も出土している。また、前橋城車橋門丸馬出しの調査では、平安時代の堅穴住居が検出された。前橋城築城による地形改変と現代の市街地化により、遺跡の確認が困難であるが、前橋城内には少なからず古代の遺跡が埋もれている。



大胡城本丸の調査



膳城外堀の調査



元総社蒼海遺跡群(1)
4トレ蒼海城掘跡



元総社蒼海遺跡群(11) 全景



車橋門丸馬出しで検出した
古代の住居



前橋城北曲輪遺跡出土
の円筒埴輪

厩橋から前橋へ

中世の前橋城

厩橋城築城は15世紀末、長野氏によるとされる。戦国期には有力な戦国大名の勢力抗争の中、城主もたびたび変わる。まず関東進出を図る上杉謙信が家臣の北条高広を城代にするが、謙信没後、北条氏は武田氏に従うことになる。天正10(1582)年に武田氏が滅亡すると、織田信長の家臣滝川一益が入城するが、同年の本能寺の変の後には小田原北条氏の属城となる。天正18(1590)年の徳川家康の江戸入封後、前橋城は関東北辺の守りとして重要視され、同年、側近の平岩親吉が封じられる。

八幡宮文書
北条高広寄進状



前橋城遺跡中世の堀跡



前橋城遺跡出土の中世陶磁器

近世の前橋城

酒井氏の時代

慶長6(1601)年2月、譜代筆頭の酒井重忠が川越より3万3千石で転封となった。以後約150年にわたり酒井氏が代々前橋城主を務めた時代に、厩橋城は前橋城と改名され、「関東の華」に恥じない城に姿貌を遂げた。しかし、天然の要害を誇った利根川が城を浸食しはじめ、やがて本丸までが崩落の危機に襲われることになった。



酒井重忠像



三の門想定復元図



酒井氏時代の鬼瓦と鯉瓦

松平氏の時代

寛延2(1749)年、酒井に替わり、松平朝矩が姫路から転封となった。そこで、利根川の浸食によって崩落する本丸から三ノ丸に御殿を築くが、崩落が進行したため、明和4(1767)年に川越への移城となる。わずか18年の居城であった。その後、約百年間、前橋城は川越藩の分領として陣屋支配となり、城は漸次取り壊しとなった。



松平朝矩



三の丸御殿想定復元図

再築前橋城

横浜開港にともなう生糸貿易により活況を取り戻した前橋町民有志から、帰城の嘆願書と再築資金が出資され、慶応3(1868)年、前橋城は復興された。旧三ノ丸を本丸として改修し、砲台を10か所以上も備える最新式の城郭へと生まれ変わり、この年に川越から松平直克が帰城した。翌年、明治維新を迎えることになり、前橋城の本丸御殿がそのまま県庁として利用された。



松平直克像

IV 前橋城をあるく <前橋会場限定企画>

前橋城の面影 現在に残る前橋城の遺構は、県庁や前橋公園の土塁、県庁より約200m東にある車橋門跡、そして、今は児童遊園「るなばあく」となっている空堀のみといつてよい。これらは幕末期の再築前橋城のものである。

酒井氏時代の絵図によれば、前橋城は利根川の左岸の断崖に築かれた列郭式の縄張りであった。中核部は崖の縁に沿って配され、本丸には三層の天守閣が聳えていた。この中核部は中世厩橋城の構造を用いているとも言われている。前橋城域の北西の風呂川は、城内で使う水を広瀬川から引き入れたものである。

藩主や藩士の足跡 前橋藩に関わる資料は、「酒井家資料」や「典籍前橋藩松平家記録」など前橋藩政を具体的に伝えるものや、また「松平家奉納能装束一式」（前橋東照宮蔵）、前橋藩家老「小川原左宮の甲冑」（個人蔵）、酒井氏奉納の「神明宮の甲冑」など、少なからず現存している。また、前橋市へ寄贈された刀剣には、前橋藩士が用いたとされる「前橋ハバキ」を装丁されたものがある。市内には藩士の家とされる家屋も何軒か現存し、前橋城の面影は、そこかしこに残っている。



国土地理院撮影の空中写真（2000年撮影）を使用



神明宮の甲冑



小川原左宮甲冑



松平家奉納能面



松平家奉納軍配

松平家奉納陣羽織

高崎城を歩く <かみつけの里博物館限定企画>

高崎市役所周辺や城址公園内には、高崎城が存在していた事実を実感できる文化財が数多く残されている。それらにふれることによって、高崎城が機能していた当時をしのぶことができる。

①堀と土塁

現在残っているのは、高崎城の最も外側をめぐる三ノ丸堀とそれに伴う土塁である。

②乾櫓

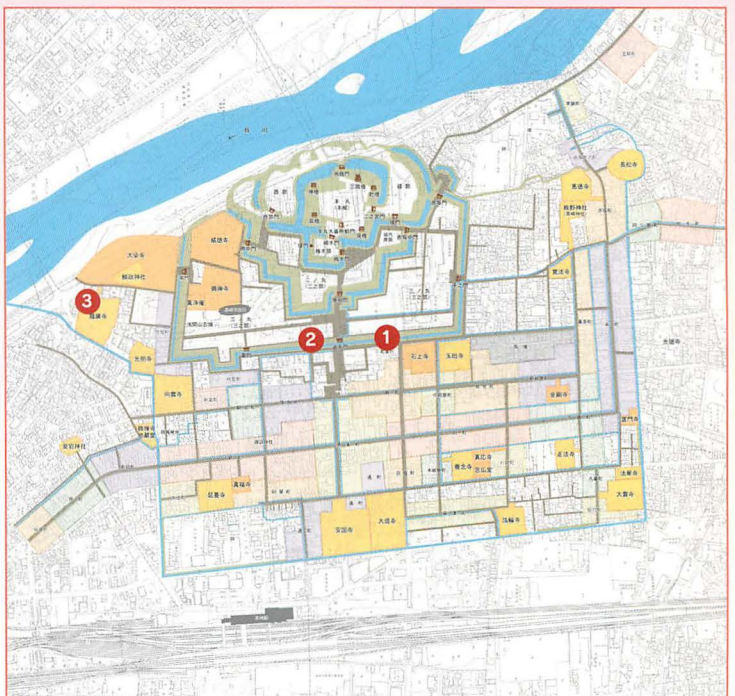
本丸内に築かれていた櫓のうちのひとつで、現在は群馬音楽センターの北東に復元されている。県内で唯一、城郭建築として県指定重要文化財に指定されている。

高崎城東門

二ノ丸内に築かれた、くぐり戸を備えた平屋門である。現在は乾櫓の隣に復元されている。

③龍廣寺

高崎城の南に位置する寺で、「高崎」という地名の提唱者である白庵和尚が開山したとされており、高崎の地名ゆかりの寺として親しまれている。



前橋会場

【前橋プラザ元気21
1Fにぎわいホール】

前橋市本町2-12-1

2009
11月9日 11月25日

問い合わせ: TEL.027-231-9531 前橋市文化財保護課

高崎会場

【高崎シティギャラリー
2F第6展示室】

高崎市高松町35-1

2009
11月31日 2月9日

問い合わせ: TEL.027-321-1292 高崎市文化財保護課

かみつけの里博物館

高崎市井出町1514 TEL027-373-8880

関連展示

【東国千年の都ー前橋・高崎の中世をあるく】

2009

2月22日 5月31日

休館日: 毎週火曜日
祝日の翌日